



ライブラリー

神石小学校 図書だより
平成29年10月号

親子読書の取り組み ありがとうございます！

お忙しい中、親子読書の取り組み、ありがとうございました。感想から、楽しんで取り組んでくださったと感じました。ご協力ありがとうございました。



☆親子読書の感想より

「はれときどきぶた」(1年生)

そらからぶたがふってきたのでびっくりしました。わたしも見てみたいです。

(保護者の方から) 2冊目の親子読書も読み聞かせにしました。読み終わった後は感想を言いました。

「さみしがりやのサンタさん」(2年生)

ーばんおもしろいところは、うたです。わけは、あかるいような、うただったからです。おおおとこはいい人だと思えます。わけは、ハーモニカもなおしたし、たのしいうたも教えてあげたからです。

(保護者の方から) 「おもしろいから読んで。」と持ってきた本。サンタさんにもサンタさんが来てくれた話で、あったかくてやさしい本でした。

「いのちは見える」(3年生)

わたしは、今お母さんのおなか大きいので、お母さんのおなか動くのをさわってみたいと思えました。命ってすごいと思えました。

(保護者の方から) 3人目が生まれるので、この本はととてもためになりました。命のすごさ、大切さを分かってくれたらよいです。胎動も外から分かるようになったら、さわらせようと思えます。

「てぶくろを買いに」(4年生)

最初は、きつねのお母さんは「人間はこわいのもなんだよ。」と言っていたけど、最後は、「本当に人間はいいものかしら。」とつぶやいたのが不思議だなあと思えました。

(保護者の方から) 危険だと伝えることは大事なことです。最初から無理だと決めつけてしまうよりも少しずつ挑戦させて、自立へと導いてあげないといけないなと思えました。上手にできたときも失敗して傷ついたときもグュー！って抱きしめてあげられれば、子どもも安心して次へと挑戦していくんだなと思えました。

「警備と安全のここが知りたい」(5年生)

もし、警備がなかったら世の中が安全でなくなってしまうし、警備がどれだけ大切なのか、日本にはいつから警備があるのか分かりました。

(保護者の方から) 修学旅行(キッザニア)で警備を体験してきたようで、警備員には、こうやって安全を守るんだよ、という訓練もあるようです。いつも人々の気持ちによりそって行う仕事なんだねと話し合いながら読んでもらいました。

「杜子春」(6年生)

杜子春は、仙人にしゃべるなどと言われていましたが、結局しゃべってしまいました。しかし、それは親のためにしゃべってしまったので、ぼくはその気持ちがよく分かりました。

(保護者の方から) 仙人になろうと、仙人に弟子入りして、結局は仙人にはなれなかったけど、両親を大切に思っている自分の気持ちに気づけたところが良かったです。



☆ 今回の親子読書では、3名の児童が2枚目の親子読書にチャレンジしていました。読書の秋です。親子読書に限らず、ご家庭でも引き続いて本を読みましょう。

☆ 今回の親子読書振り返りカードを読ませていただくと、

保護者のみなさんのいろいろな思いを知ることができました。

中でも特に印象に残ったのが、「子どもの成長を感じた。」と

いう感想がいくつも見られたことです。以前よりもページ数の

ある本を読むようになったり、学年が上がって難しい内容の本

を選ぶようになったりと、様々な場面でお子さんの成長を感じられた方が多いように感じました。

また、「読むのが上手になった。」と感じた方も多くおられました。低学年の時は、苦労しながらも一生懸命読んでいましたが、学年が上がるにつれて、スラスラと、またははっきりした声で読めるようになったと感じられた方も多くおられました。

これらのような、読書にふれるということだけでなく、お子さんの新たな成長を発見し、親子で喜びを分かち合うのも、親子読書のよい所だと感じました。

